

# 志賀原発に雨水流入し漏電

## 規制委「安全機能失う恐れ」

停止中の北陸電力志賀原発2号機(石川県)の原子炉建屋に6・6㍓の雨水が流れ込み、非常用照明の電源が漏電する事故が9月に発生し、原子力規制委員会は19日、北陸電に原因究明と再発防止を求めた。田中俊一委員長は「これほどの雨が流入するのは想定外だった。安全上重要な機能を失う恐れもあった」として、新規基準に基づき再稼働の審査を見直す可能性を示唆した。

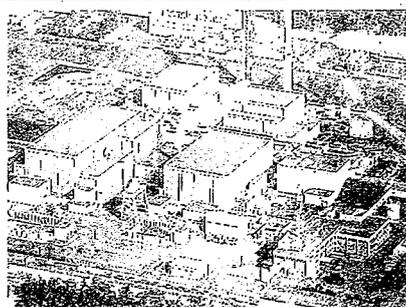
ある排水路が道路工事の一部ふさがれていたため、雨水が道路にあふれ出た。仮設ケーブルを通すためふたの一部開いていたケーブル配管に流れ込んだ。

北陸電の報告によると、雨水の流入は9月28日に発生した。原子炉建屋の横に

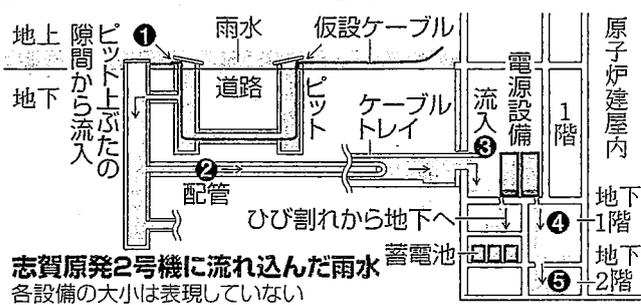
蓄電池があるが、その真上の場所にも水が来ていたという。気象庁によると、当日の雨量は1時間あたり最大26㍓だった。

東京電力福島第一原発は、津波で非常用電源が失われて事故につながった。このため、新基準は防潮堤で津波を防ぎ、建屋に水密扉をつけて浸水を防ぐなどの対策の強化を求めている。しかし、配管から雨水が流れ込むことは重視されてこなかった。志賀原発は近くに川などがいないため洪水対策は不要とされ、配管は密封されていなかった。

規制委は今後、志賀2号機の再稼働に向けた審査で対策を求めていく方針。また、今回の問題が志賀原発固有の問題かどうか、北陸電の報告を待って検討するという。北陸電の金井豊社長は19日、規制委の臨時会で「現場周辺は標高が高く、止水対策が後手に回っていた。当直の危機意識も薄く、警報への対応も遅れた」と陳謝した。(杉本崇)



北陸電力志賀原発。左奥が雨水が入った2号機原子炉建屋(石川県志賀町、本社へりから)



志賀原発2号機に流れ込んだ雨水  
各設備の大小は表現していない